

いいトコPhoto



▲弟泣いた！姉笑った！
生まれて1カ月の弟が大好きなお姉ちゃんです
●きなこあげぱん（下安松）



▲熱気球
はじめて見た熱気球!とっても大きいな
●りりちゃん（くすのき台）



▲もうすぐ3カ月♪
そっくりなこびとがいつも見守ってくれています
●ロクちゃん（東狭山ヶ丘）



◀美しいお客さん
この世の生き物とは思えない美しさです
●あなやん（向陽町）



▲おいしいトマトが採れた
体験農園でミニトマトが収穫でき、とても嬉しそうでした♪
●トマ・トマニ（上新井）



◀ひまわり畑
ひまわりの摘み取りをしました！満開のひまわりが夏を彩ってくれました
●atsu（下安松）

▶キャンプの朝
息子が楽しそうに描きました。家族のお気に入りの一枚です
●ミンミン（小手指南）



投稿大募集！

写真・絵手紙・切り絵・川柳・エッセイなど、皆さんの作品やお便りを募集しています。

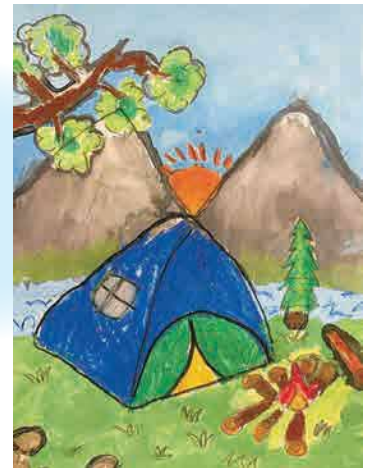
応募方法

欄外の留意事項をご覧の上①住所②氏名③年代④ペンネーム⑤タイトル⑥作品コメント⑦広報紙の感想を記入し、メール・郵送（写真は10MB以内／エッセイは300字程度）



▶✉hiroba@city.tokorozawa.lg.jp
▶〒359-8501広報課みんなのひろば（住所不要）

いいトコ作品集



誰でもエッセイ

テーマ 「秋の訪れを感じるとき」

セミ捕り

野村武夫（東狭山ヶ丘）
半世紀以上前のむかしむかし、夏休みになると、母ちゃんが手ぬぐいでこさえてくれた虫捕り網と青い虫かごを持って、1日中セミ捕りをしてた。数匹のミンミンゼミやニイゼミ、後はほとんどアブラゼミを虫かごいっぱいにつまみ食いして、またそんなに捕ってきても、佃煮でもする気がない」と母ちゃんに言われていた。夏休みの終わりに泣き泣き宿題をやった。始業式。9月の彼岸の頃にひぐらしが鳴き始める。秋の訪れと聞くと、懐かしく思い出される。

木製の冷蔵庫

平栗彰子（緑町）
ふるさとの南信州で過ごした子どもの頃、冷蔵庫は木製で、枕ほどのサイズの氷を上部に入れて使うものだった。中段に収納部分があり、魚や果物などを入れて冷やした。足の部分には溶けた氷の水を受けるブリキの皿があり、日に2回その水を捨てるのが、私の夏休みのお手伝いだった。

田舎の夏は旧暦のお盆を迎える頃から急に盛りを過ぎ、畑のナスやキュウリの葉を揺らす風も肌にひんやり感じるようになる。私の水捨て仕事も1日1回で十分間に合うようになった。時に遊びに紛れて水を捨て忘れても溢れることもなくなり、冷蔵庫の水処理当番も不要となった。それは私には、夏の終わりと秋の訪れを知らせる気持ちのいいサインでもあった。

庫と秋の訪れは全く関わりがなくなってしまう。木の冷蔵庫は乾物などの物入れとなり、しばらく台所の隅にひっそりと置かれていたのを記憶している。

秋の訪れを感じる時

佐藤征昭（狭山ヶ丘）
私にとって、秋の訪れを感じる時は3つのタイミングがあります。まずは、趣味の俳句です。実際の気候より、早く登場する季節に接するとき、心に秋の訪れを感じます。そして15年以上にわたって、「立哨」いわゆる、小学生の見守り活動を行っていますが、長い夏休みが終わり見守りを再開した時にも秋の訪れを感じます。登校児童の日傘使用が減ります。頬に感じる風は汗を運ぶのでなく、爽やかに心地よき涼風です。

最後に、退職後に始めたボランティアコンサートで「赤とんぼ」「紅葉」「里の秋」「旅愁」「倅せは」などに、のりくエラストが増えた時が、まさに秋の訪れを感じる時であります。

10月号のテーマ 「リフレッシュ方法」 締め切り 9月10日(木)



▲市HP（Qひばりちゃん）でダウンロードできます。